



日本最古の地球儀



高分解能

現存する 日本最古の 地球儀

紙張子製地球儀
渋川春海 作

元禄8年(1695年)製作

国立科学博物館所蔵

画像合成のために
色や縮尺等、一部正確では
ない所がありますので
ご注意ください。

作成：Dagik Team

<http://dagik.org/M/3>

Dagik



現存する日本最古の地球儀

<http://earth.dagik.org>

現存する日本最古の地球儀です。元禄8年（1695年）に渋川春海（二世安井算哲）が製作しました。

国立科学博物館所蔵の地球儀を許可を得て、カメラで撮影し、デジタル化しました。実際の地球儀には支える軸があります。画像合成のために色や縮尺等、一部正確ではない所がありますのでご注意ください。

地球儀がいつ日本にもたらされたかははっきりしませんが、織田信長が所有していた記録があります。少なくとも織田信長は地球が丸い事を理解していたと想像できます。(ただし、天動説が日本に伝わるのは1770年頃になります。)この地球儀は、中国に来たイタリア人宣教師マテオ・リッチが1602年に作成した「坤輿万国全図(こんよばんこくぜんず)」と呼ばれる(平面の)地図をもとにしていると考えられています。

コンテンツ作成: Dagik Team

データ: 国立科学博物館所蔵 渋川春海 作 紙張子製地球儀の撮影画像

データ画像作成: Dagik Team

コンテンツ説明: <http://dagik.org/M/3>

手作り地球儀の作り方：帯型シート（直径7.5cm）

準備するもの

- ・直径7.5cmの球（ガチャガチャカプセルや発泡スチロール球など）
 - ・印刷する紙（再剥離タイプのノーカットラベルシートがお勧め）
 - ・カラープリンター（インクジェット式の方が色が剥がれずにきれいに作れます）
 - ・カッターと定規（あるいはハサミでも）
 - ・スプーンなど硬いもの（貼り付けた後で、シフを伸ばすのに使います）
- 必要に応じて：
- ・のり（ラベルシートではなく普通紙に印刷する場合は必要）
 - ・磁石や重り（ガチャガチャカプセルの場合はカプセルの中に磁石や重りを入られます。発泡スチロール球の場合は、穴を開けて埋め込むことができます。）

(印刷する)

- (1) 拡大縮小をせずに **100%のサイズで印刷** します。(画像が印刷されている帯の両端付近の線の間の長さが **23.5cm** くらいに印刷されます。)

(切る)

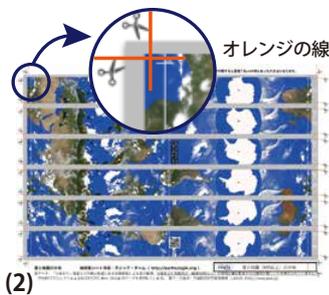
- (2) **オレンジの線**（灰色と画像の境界ではなく）でまっすぐに切り取り、6本の帯にします。

(貼る)

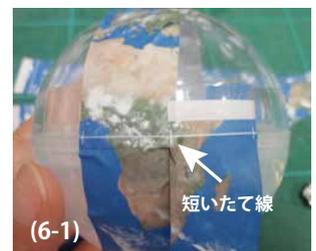
- (3) **数字の順番**に貼ります。まずは①の帯を貼りましょう。
- (4) カプセル球の線と、型紙の赤道の線を合わせて貼ります。数字が書いてある所を下に重ねよう、南極等の・マーク（黒点）も目印にしながら貼ります。
- (5) 球を両手で軽く握り、紙①をなじませます。
- (6) 次の②の帯を①の右側に貼ります。向きに注意してください。少しずつ重なるようになっていきますので、赤道の短いたて線マーク→を重ねてください。
- (7) あとは同じように繰り返し線や画像ができるだけずれないように重ねて貼り合わせましょう。

(シフを伸ばす)

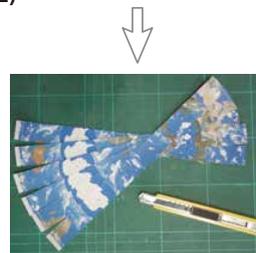
- (8) 貼り付けた帯がよれて、シフになっている部分を、スプーンの背中（丸い方）でこすって伸ばし、平らにしてください。全ての帯を貼ってからこすっても良いですし、1枚の帯を貼るごとにこすっても良いです。



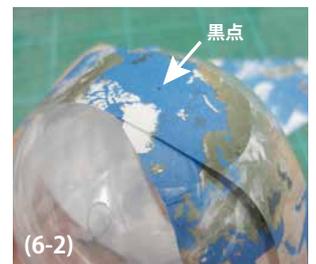
(2)



(6-1)



(3)



(6-2)



(4)



(7)